

## 総合的な学習の時間 学習指導案

藤井寺市立 道明寺東小学校

指導者 彼塚 由衣

1. 日時 令和7年 9月26日(金) 第5時限(13:45~14:30)

2. 場所 第6学年1組教室

3. 学年・組 第6学年1組(32名)

4. 単元名 地域の防災リーダーになろう

5. 単元の目標

### 【知識及び技能】

・調べる観点にあった資料から必要な情報を見つけることができる。

### 【思考力, 判断力, 表現力等】

・防災・減災の課題を知り、調べた情報を目的に合わせた方法でまとめることができる。

### 【学びに向かう力, 人間性等】

・地域の防災・減災でできることを地域の一員として考え、取り組もうとする。

6. 単元(題材)の評価規準

### 【知識・技能】

・調べる観点にあった資料から必要な情報を見つけている。

### 【思考・判断・表現】

・防災・減災の課題を知り、調べた情報を目的に合わせた方法でまとめている。

### 【主体的に学習に取り組む態度】

・地域の防災・減災でできることを地域の一員として考え、取り組もうとしている。

7. 単元で取り上げる言語活動

・想定される被害をワールドカフェ形式で、他のグループにわかりやすく伝える。

・他のグループからの情報をもとに、自分たちが想定した内容を再考し、表現する。

・質問をする前に、自分たちの考えを整理し、質問の要点をまとめる。

8. 教材観

本単元では、近い将来、起こると言われている大地震(南海トラフ地震)に向けて、家庭や学校、地域でどのような備えができるのか、地震が起こった時に被害を少なくするためにどのようなことができるのかという防災・減災について学習することを目的としている。

学習の流れは、三段階で構成されている。まず、これまでに日本で起きた大地震について調べる。次いで、調べたことを活かして自分たちの校区の防災マニュアルを作る。そして、最後のステップでは、地域の方、保護者、下級生に向けて災害への備えについて提案する。

このように、日々子どもたちが生活している「校区での大地震」を、現実に関わり得る問題として直視し、防災・減災にかかる具体策を考えるとところに本単元の魅力がある。

## 9. 児童観

本校は川沿いにある学校のため、大雨による川の増水などの被害が予想される危険も多くある。そのため本学級の児童は5年生の時に「水害に備える町づくり」の学習をしている。自分たちが生活している地域の危険な場所を自分たちで調べ、どのような備えができるのかを考えハザードマップを作成した。さらに水害の備えについて考え、壁新聞にまとめた。またその内容を次年度入学する子どもたちに、水害の危険性について伝えることができた。

6年生では地震について、地域の防災・減災について学習を進めていく。自分たちの地域で大地震が起こるかもしれないという意識は持っているが、具体的にどのような被害が起こりうるのか、イメージを持っていない児童がほとんどである。

## 10. 指導観

本単元では地震についての「地域の防災リーダーになろう」をテーマに学習を進めていく。まず具体的な地震の被害をイメージするために、過去に起きた大震災の被害状況について調べる。被害状況とその要因について考えることで、南海トラフ地震が実際に起きたときのイメージを持つことができると考える。

次に、実際に自分たちの地域に置き換えて考えるために、具体的な被害を想定しながら、校区のフィールドワークを行う。住宅密集地・道幅・瓦屋根などの観点をまとめたワークシートを持ちながら、校区地図にまとめる。危険箇所を整理する中で、どうすれば安全に避難できるかなど生き延びる手立てにも気づけるようにしたい。

これらの学習を通して、地域の防災マニュアルを作成し、発信することで地域と協力しながら防災・減災について一緒に考えていきたい。またこれからも自ら探究し続けることで自分たちの防災意識をさらに高め、将来、地域の防災リーダーとしての役割を担う一員となってほしい。

11. 単元の指導と評価の計画(全26時間)

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法		
			知識・技能	思考・表現・判断	主体的に学習に取り組む態度
第1次	見通す(6)	<p>1 単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【言語活動】</p> <p>①地震についてのイメージマップを作る。(どれだけ危機意識をもっているか、自分事として考えられているか把握する。)</p> <p>2 過去に起こった大きな地震(阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震・能登半島地震)について調べる。【言語活動】</p> <p>[図書館活用] 地震に関する図書資料等を使って調べる。</p> <p>②③ 4つの地震の「被害状況」を調べる。</p> <p>④ 4つの地震の「被害状況」を比較しどんな違いがあるか見つけ被害の要因になったものは何か考える。</p> <p>⑤⑥ ④をふまえ、阪神淡路大震災と東日本大震災での「復旧までの道のり」「復興に向けた取り組み」について調べまとめる。また現在にも生かされていることをまとめる。</p>	<p>②③ 過去に起こった地震を知るために必要な資料を使って調べている。(ワークシート)</p>	<p>④ 自分の調べたことと友だちの情報を比較し、関連付けて考え特徴を整理している。(ワークシート)</p>	<p>①～⑥ 災害について関心を持ち、自分自身の生活と結び付けて考え、学習に取り組もうとしている。(行動観察)</p> <p>①～⑥ 過去に起こった地震について資料を使い調べようとしている。(行動観察)</p>

<p>第2次</p>	<p>取り組む(18)</p>	<p><b>3</b>南海トラフに備えて地域に向けてできること考える。</p> <p>⑦⑧ 南海トラフ地震について調べる。</p> <p>⑨ 調べたことについて交流する。</p> <p>⑩⑪ 地域の危険箇所・被害要因を確認し、フィールドワークに行く。</p> <p>⑫⑬ 地区ごとにどんな被害が想定されるか考える。(本時③)</p> <p>⑭⑮ 想定した被害から自分たちの身を守る方法を考える。</p> <p>⑯⑰ 保険会社による防災についての出前授業をうけ、さらに藤井寺市の危機管理課担当者に地域の防災について学ぶ。</p> <p>⑱⑲ 野島断層や防災センターへ行き、地震や防災についての知識を深める。</p> <p>⑳㉑㉒ 調べたこと、学んだことをまとめる。</p> <p>㉓㉔ 経過報告をし、発表して出てきた疑問点や問題点を整理し、よりよいものにする。</p>	<p>⑦～⑱ 防災や減災について理解している。(行動観察)</p> <p>⑳～㉓ 適切な資料を使い、調べたい観点到に沿った必要な情報を選んでいる。(ワークシート)</p> <p>㉔～㉕ 地域において防災・減災について分かりやすくまとめている。(ワークシート)</p>	<p>⑫⑬ フィールドワークで調べたことをもとに、想定される被害を考えている。(ワークシート)</p> <p>⑳～㉓ 集めた情報を整理分析し、目的に合わせて活用している。(行動観察)</p> <p>㉔㉕ 地震での防災・減災について地域の課題や今後の取り組みについて必要な資料を集め、整理・分析している。(ワークシート・行動観察)</p>	<p>⑦～㉕ 自分の住む地域での大地震に備えてできることを考え、地域の一員として積極的に参画している。(行動観察)</p>
<p>第3次</p>	<p>振り返る(2)</p>	<p><b>4</b>調べて分かったことをまとめて、他学年や地域の方に発信する。</p> <p>⑳地区ごとに地域の方や保護者、下級生に向けて「災害への備え」について伝える。</p> <p><b>5</b>学習の成果を振り返る。</p> <p>㉗地域の防災リーダーとしてこれまでに取り組んだことを振り返る。</p>		<p>㉖伝える相手や目的に応じて考えをまとめ、適切な方法で表現している。(ワークシート)</p>	<p>㉖地域の特徴を理解したうえで地域における防災・減災における取り組みようとしている。(行動観察)</p> <p>㉗これからの地域における自分の役割について考えようとしている。(行動観察)</p>

## 12. 本時の展開

### (1) 本時の目標

フィールドワークで調べたことをもとに、想定される被害を考えることができる。【思・判・表】

### (2) 本時の評価規準

フィールドワークで調べたことをもとに、想定される被害を考えている。

### (3) 本時の判断基準

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	支援を要する子どもへの手立て
複数の要因を鑑みながら、想定される被害を考えることができる。	想定される被害を考えることができる。	どんな被害が想定されるかがわかる 図書資料等を用意する。

### (4) 主体的に取り組む子どもの姿

観点	めざす子どもの姿	手立て
自己決定力	<ul style="list-style-type: none"><li>・様々な要因から被害を想定することができる。</li><li>・同じ要因でも場所によって、違う被害が起こりうることを理解できる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・前時までの授業プリントを活用することで、被害を想定しやすくする。</li><li>・気づいたことをメモすることで、考えたことを伝えやすくする。</li></ul>
他者とつながる力	自分たちが考えた想定される被害を伝え合うことができる。	

(5)本時の学習過程

時	学習活動(○) 予想される子どもの意見(・)	指導上の留意点(○) 教師の主な発問(「 」)	評価規準(評価方法)
3	○前時の内容を確認する。	○各地区の地図を掲示する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;">                     見つけた危険箇所から想定される被害を考えよう。                 </div>			
10	○前時で見つけた危険箇所からどんな被害が想定されるか考える。【グループ】 ・「瓦の家が多い」→落ちてきたらけがするかも ・「石垣の上に家があった」→崩れて、家屋の下敷きになるかもしれない ・「家が密集しているところがあった」→火災が起きたら燃え広がるかもしれない。	○どんな被害が想定されるかわかる図書館資料等を用意する。 ○手元に前時までの授業プリントを置いておかせる。	【思・判・表】 フィールドワークで調べたことをもとに、想定される被害を考えている。 (ワークシート)
15	○ワールドカフェ形式で交流する。	「自分たちの考えと比べながら、グループで話し合った想定される被害を交流しましょう。」 ○交流して気づいたことをメモに取り、相手に伝えるよう声をかける。	
10	○交流したことをもとにグループで話し合う。 ・「行き止まりの道が多かった」→自分たちの地区にも行き止まりの道があるから気をつけなといけない。 ・「木が多い」→倒木の被害は想定していたけど、延焼の可能性もある。	○交流したメモをもとに、新たに気づいたことや、他に考えられる被害などについて話し合わせる。	
7	○本時をふりかえる。	○交流を通して、考えが深まったこと等発表させる。	

13. 板書計画

A 地区	C 地区	E 地区  <まとめ> ・家が密集しているところが多い。→火災、倒壊 ・瓦屋根の家があった。 →落ちてくるとけがの危険性がある。 ・道幅が狭いところ →逃げにくい。
B 地区	D 地区	

14. ご高評価欄